

緊急地震速報の試験運用における活用方策の検討状況(自動制御系)

利用者	活用方法	試験運用中の利活用の状況の例	実用化に向けての現在の状況等	利用者の評価
鉄道事業者	列車の運行制御や緊急停止	列車制御のためのプロトタイプシステムを作成し、その評価が行われている。7月23日の千葉県北西部の地震では、緊急地震速報による列車の緊急停止の判断を沿線に主要動が到達する約16秒前に行える等、実利用に向けたシステムの評価が行われている	「利用の手引き」を作成するとともに、一部の事業者においては、プロトタイプシステムを作成し評価中。また、事業者からは早期の本運用開始を希望されている。	利用にあたって大きな問題はなく、すぐにも活用可能。
エレベータ事業者	エレベータの管制運転	東京都内の試験棟(P波・S波センサーを設置)において評価が行われており、7月23日の千葉県北西部の地震では、S波検知の7秒前に情報が受信できた(P波センサー検知なし[調査中])。一方、2月16日の茨城県南部の地震では、情報の受信がP波センサーでの検知後となった。	今後、制御のための基準(ガイドライン)を検討する予定。	利用にあたって大きな問題はないが、実用化(汎用)のためには安価な情報伝達手段の構築が必要である。
電力・ガス事業者	発電機の制御やLPG貯蔵施設における配管の緊急遮断	発電機の制御に利用するため、情報の精度等について検証中。LPG緊急遮断システムのプロトタイプを開発し、検証中。リスク評価について実施中。	情報を受信し検討中。一部の利用者は、プロトタイプシステムを開発して検討中。	さらなる精度評価やリスク評価が必要である。
製造業等	生産ラインの制御等	半導体工場等において、自前の地震計や震度計で行っていた生産ラインの停止等への利用を検証中。	情報を受信して検討中。一部の利用者は、プロトタイプシステムを開発中。	さらなる精度評価やリスク評価が必要である。
	工場内施設からの危険物流出	工場内からの危険物(ガスや薬品、液体等の危険物)の流出防止のためのプロトタイプシステムが開発されている。	情報を受信して検討中。一部の利用者は、プロトタイプシステムを開発中。	利用にあたって大きな問題はない。

緊急地震速報の試験運用における活用方策の検討状況(危険回避行動支援)

利用場所	活用方法	試験運用中の利活用の状況の例	実用化に向けての現在の状況等	利用者の評価
各種工場や 企業内、作 業現場等	施設内におけ る社員等の安 全確保	従業員への避難行動を呼び掛けるための一斉館内放送システムを構築し、10月6日の茨城県南部の地震や10月23日の新潟県中越地震では、予測震度が4となり一斉館内放送を行い、これに基き従業員が避難行動を取った。また、他の参加機関でも主要動の到達前に情報を受信したことにより、身構えることができている事例も多く報告されている。	プロトタイプシステムを運用中。	事前の周知を十分行うことにより、混乱なく利用できる。
	高所等、危険作 業従事者の危 険回避	伝達手段の検討は行われているが、具体的なものはない。	-	-
学校内	机の下に隠れ る等、身の安全 を図る	児童への避難行動を呼び掛けるための校内放送システムを構築している。実際の情報受信による放送例はないが、訓練を通じて迅速な避難行動が行えるようになっている(当初は20秒以上かかっていたものが、5秒程度で行えるようになった)。	プロトタイプシステムを運用中。	事前の教育と訓練を十分に行うことにより、混乱なく利用できる。
家庭内	テーブルの下 に隠れる等、身 の安全を図る。	4月11日の千葉県北東部の地震では、実証試験に参加している家庭がある地域の予測震度が3となり、家庭内に設置された受信機から音声報知が行われ、主要動到達前にテーブルの下に潜る等、実際の避難行動が行えた。	プロトタイプシステムを運用中。 慌てずに行動できた事例がある一方で、何も出来なかった事例もある。地震に対する意識が向上している。	事前の周知を十分に行うことにより、混乱なく利用できる。